

令和5年度 江戸川区立鹿骨中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	・みずから学び考えて行動する生徒 ・思いやりのある豊かな心をもった生徒 ・健康で明るく勤労と責任を重んじる生徒	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・共に磨きあうみんなが幸せになれる学校 ・主体的に切り拓く、自ら進んで、対話を大切にし、健康で、自他を大切にしている生徒 ・チーム鹿骨で生徒を最も大切にしている教職員、指導力、支援力のある教職員、自ら学び続ける教職員、30年後を見て教育ができる
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>一人一人の個性や特性を大切にしている教育活動を通して、生徒に成就感を味わわせることができた。 授業を大切にしている姿勢が身に付き落ち着いた学校生活が実現した。 <課題>一人一人の課題を解決できる授業力の向上。生徒が失敗を恐れず挑戦する力を向上させる。教育相談体制の確立。ICTを活用した指導の充実。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な	①鹿骨スタンダードの実践 ②「わかる授業」の実践 ③あじみこしの実践 ④校内研修の充実	①「わかる授業」生徒の肯定的な意見を80% ②「基礎基本が身につく授業」の肯定的な意見を80%	A	A	①SJSによる「わかる授業」の実現95.8%→95.3%「基礎基本が身につく授業」97.4%→97.2%「あじみこし」一着に着いた学習環境を実現 ③第1回授業改善研修(6月)実施→講師による指導・助言、校内研修を通して教職員全体で授業改善に携わることができた。①調べる学習コンクールに全校で取り組み、入賞者を出すことができた。	A	引き続き学校の取り組みを継続してほしい。	来年度は、江戸川区の教育課題実践校として、学習に関する研究に取り組みを継続していく。今後も個別に最適な学びが実現できるよう授業改善と指導力向上に努力していく。
	読書科の更なる充実	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①図書館を利用した探究的な学習 ②読書科ノートの活用、POPづくりやビブリオバトル ③教科での図書館活用(全教科年1回以上)	①図書館を利用した「調べる学習」生徒80% ②未読率0% 探究的な学習80% ③授業で図書館を利用した生徒100%	A	A	①運動会(6月)→生徒が主体的に練習に取り組むことで運動に対する意欲と体力の向上を推進①体づくり部(ボカ)(毎月)→文化部の生徒の運動習慣の確立と体力向上を目的。②保健体育の授業(毎時)→自分で目標設定をする補強運動。③体力測定(6月)→10月に結果、分析、活用した体力向上の取組を実施。⑤「食の理解を深める」76.91%→課題SDGs「フードロス」の取組を計画	B	運動会で生き生きとした姿が見られた。引き続き子供たちの体力の向上に努めてほしい。部活動や運動で活躍している生徒が多い。	取り組みを継続していく。体力調査の結果(10月)を活用して、運動習慣の確立を目指す。
	体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	①体力テストの測定と結果の活用 ②保健体育科の授業での補強運動の実施 ③食育指導日の設定(栄養士との連携)	①②「体力調査の結果」江戸川区東京都の平均以上 ③「食を意識して生活している」生徒70%	B	B	①特別支援委員会(毎週)→特教室巡回教員・専門員、SC、SSWなど専門職をメンバーとして組織的な見立てと対策、運営を実現。②個別指導計画の作成(11名)③「相談しやすい」生徒70.7%、保護者79.82%(前年比生徒増、保護者減)→あいさつ運動(毎朝)④復籍交流2名(鹿本学園)	B	楽しく学校へ通えることが大事。いじめを起さないで答えた生徒の中に約4%もそうでないと答えた生徒がいるので、見逃さないで欲しい先生に相談しやすい環境をさらに整えてほしい。	SCやSSWを活用し、相談体制を整えていく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①特別支援教室の組織的運営 ②個別指導計画の作成と共有 ③支援を要する生徒の早期発見・対応 ④学校だより等の副籍交流	①「利用してよかった」特別支援教室利用生徒・保護者各80% ②「先生やSCに相談しやすい」生徒、90% ④毎月学校だより等送付、校内掲示100%	A	B	①いじめ撲滅宣言(4月)→全学年昇降口に掲示。「いじめを起さない」97.8%。②第1回いじめアンケート(6月)→早期発見早期対応で早期終結、継続案件1件。いじめアンケート(11月・2月実施予定)③SNS家庭ルール強化週間(6月)→「情報モラルを守っている」99.4%。④不登校生徒21名(3.9.9)5.72%→特別支援委員会で組織的に対応、社会的自立を目指す。⑤副籍交流学級交流を実施1名	A	保護者がアンケートに回答しやすい環境を整えている。地域もヤングケアラーの対応等協力できることはできるだけ協力していく。	引き続き取り組みを継続していく。早期発見、早期授業改善、解決を目指す。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の充実 ・教育相談の強化 ・hyper-Qの活用	①いじめ撲滅宣言 ②年3回アンケートを実施 ③鹿骨SNSルール ④不登校生徒に寄り添う指導(エンカレッジルームの活用等) ⑤居場所となる学級指導	①「いじめの重大事態の発生件数」を0にする。 ②いじめ事案の解消を100%にする。 ③「鹿骨SNSルールを守っている」生徒80% ④不登校生徒4%	A	A	①ホームページの更新をできるだけ多く更新していくとともに学校での出来事など今後も継続し実施していく。②地域運動会6名参加、安全安心まちづくり運動17名参加鹿骨区民まつりボランティア参加者8名 ③花いっぱい運動4回実施	A	地域行事での中学生の力は大きい。引き続き継続してボランティア活動への参加をお願いしたい	外部人材を活用した取り組みを進めていくこと
	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善 <自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	①ホームページの充実 ②学校応援団の活用 ③花いっぱい運動	①ホームページの更新回数 ②地域行事への参加人数 ③花いっぱい運動の実施回数	A	A	①ホームページの更新をできるだけ多く更新していくとともに学校での出来事など今後も継続し実施していく。②地域運動会6名参加、安全安心まちづくり運動17名参加鹿骨区民まつりボランティア参加者8名 ③花いっぱい運動4回実施	A	引き続き学校評価の意見を反映させていく。	保護者アンケートのウェブ回答率を向上させる
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	①「部活動ガイドライン」の徹底 ②部活動指導員・外部指導員の活用 ③学校閉鎖期間の設定 ④定時退勤日の設定学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・教員の時間外在校時間を全員60時間以下を目標にする 部活動指導員3名の活用 部活動外部指導員5名活用	A	A	・教員の退勤時間 ・部活動指導員3名 ・外部動外部指導員5名	A	教員が健康であることが生徒の指導にもつながっていく。	来年度もICT等を活用し教員の働き方改革を実施していく。
	共働き生徒が主体となる学校行事	①運動会の実施 ②合唱コンクールの実施	①運動会の実施 ②合唱コンクールの実施	生徒アンケートによる肯定的な意見80%セント	A	A	生徒アンケート 一人一人の良さや可能性を伸ばす肯定的な意見が96%	A	ポプラ祭に参加した生徒が多かった。	来年度も引き続き実施していく